

IV. 新町ホームきぼうの事業報告

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染防止を第一に考え、感染対策の徹底を図りながら日常生活を楽しく過ごしました。

方針 利用者が地域において共同して自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の身体の状況や精神の状況に気を配りながら支援を行いました。また、日常生活上における入浴、排せつ、食事の介助、相談など、その他の援助を利用者のニーズに合わせてながら適切に行いました。

なお、空室が生じた時は、その空室を利用して一時的に共同生活住居に入居し、自立生活に向けた体験利用も実施しました。

I) 新町ホームきぼうの入居者への支援・指導

1. 指定共同生活援助

(1) 入居者

利用人数（令和6年3月31日現在）

		指定共同生活援助（定員6名）												
新町ホームきぼう	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	本入居	利用数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
利用日		83	81	94	86	87	87	91	92	87	69	91	88	1036
稼働率		46.1	43.6	52.2	46.2	46.8	48.3	48.9	51.1	46.8	37.1	52.3	47.3	47.2
体験含	利用数	11	12	9	14	12	13	11	14	13	15	17	18	159
	利用日	110	108	122	115	112	115	125	124	122	107	130	134	1424
	稼働率	61.1	58.1	67.8	61.8	60.2	63.9	67.2	68.9	65.6	57.5	74.7	72.0	64.9

年齢（令和6年3月31日現在）

	～18	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男	0	0	0	1	1	2	0	4
女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	1	2	0	4

障害者総合支援法に基づく障害支援区分（令和6年3月31日現在）

区分	認定無し	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	0	1	3	0	0	4
女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	3	0	0	4

市町村別（令和6年3月31日現在）

小牧市 4名 体験利用契約者 20名

(2) 職員 13名（令和6年3月31日現在）

管理者1名、サービス管理責任者1名、世話人4名、生活支援員7名、夜間支援員2名

※兼務職員数を含む

2. 支援・指導

<豊かな生活から自立に向かう>

一人ひとりの障がい状況に応じて日常生活の支援を行い、生活の中において個々の意思や希望を叶えるため、意思決定が行えるよう支援をしました。また、自主性を育てながら、簡単な生活上の行為を各自で行うよう支援（援助）に努めました。

地域や家庭との結びつきを大切に、安心・安全な生活の提供と利用者に寄り添った支援に努めました。

- (1) 日常生活支援
 - ・対人関係を考慮しつつ、利用者同士が互いに仲間を大切にするよう支援・援助を行いました。
 - ・日常生活面における相談および食事、入浴、排せつ、調理、買い物等の基本的な生活の介助や支援に努めました。
 - ・簡単な生活上の行為（洗濯干し、たたみ、自室の掃除等）を各自で行えるよう支援・援助を行いました。
- (2) 余暇支援
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により様々な催し物（行事や外食等）の提供が難しい状況でしたが、誕生日会をはじめ、夕食のテイクアウトの利用、近所のお店への買い物やクリスマス会等の企画をし、生活の中の楽しみとなるよう支援・援助を行いました。
- (3) 健康管理支援
 - ・健康状況などを把握し、疾病予防、健康管理に努めました。家族や日中活動の事業所との連携を密にし、利用者の体調の変化に応じて迅速な対応に努めました。
- (4) 個別支援計画の作成
 - ・利用者の状況やニーズに応じた適切なサービスを提供するため、アセスメントを実施し、個別支援計画を作成しました。また、作成された支援計画を実施し、モニタリングを行い、生活の見直しをしました。
- (5) 災害時および緊急時への対応
 - ・非常災害対策計画に基づき、安心・安全な生活を送れるよう家族や地域、関係機関との連絡体制を整え、出勤前、帰宅後や就寝時間に防災訓練を行いました。
 - ・利用者の呼出し等速やかに対応できるよう常時連絡できる体制を確保しました。
- (6) 嗜好調査
 - ・食事等についての意見や要望を聞き、バランスのとれた食事等に配慮しました。また夕食の選択（テイクアウト）を実施しました。
- (7) 地域との交流
 - ・地域や地域住民の理解促進のために地域自治会に加入し、地域の一員として積極的にあいさつをして交流に努めました。
- (8) 体験利用
 - ・入居に向けた共同生活援助の体験の場を提供し、自立生活に向けた支援をしました。

3. 職員研修

職員の資質向上、専門知識の修得等

外部研修	各種団体等の研修会（年5回、延6名）※オンラインを含む 障害者グループホーム各種加算の仕組み 人に好かれる育成コミュニケーション 障害者区分の手続きポイント GH利用者様募集に関する勉強会 共同生活援助事業所の意見交換会
研修報告 （回覧）	人に好かれる育成コミュニケーション 障害者区分の手続きポイント
内部研修	日常事例から兼務職員による直接的な支援・対応の仕方の助言 年度末研修会（年1回、8名） <ul style="list-style-type: none">・虐待防止について・事業継続計画について

4. 行事等の活動

月	日	行事等の内容
6	22	防災訓練（夕方）
8	10	消防設備点検

	11～15	夏季休暇帰省
10	16	消防立入検査・指導
	20	防災訓練
12	29～1/4	年末年始帰省
1	18	防災訓練（夜間）
2	8	消防設備点検
3	22	防災訓練（早朝）
	31	年度末特別休暇

※該当者がいる月に誕生会を実施

※個別懇談会（モニタリング等）を実施

※毎月1回は夕食の選択（テイクアウト）と買い物を実施

※スイカ割り、花火、クリスマス会など季節に合わせた行事を実施

5. 実習・体験・見学・交流の受け入れ

	期 日	実 習 等 の 内 容	人 数
見学	5/11・8/8・8/16	実習生	3名
見学	4/12・7/13・7/18・7/19・11/13・3/23	利用者	6名

6. ボランティアの受け入れ

特になし

7. 苦情の受付件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ご意見・ご要望：0件

8. 公益的な取り組み

特になし

9. 施設整備（設備整備）関係

特になし